



新年のごあいさつ

担当常任理事 杉本 洋輔



新年あけましておめでとうございます。

先生方におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

平素より当検査センターの運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、安佐、安芸地区、大竹市、佐伯地区、山県郡の各医師会会員の先生方には、日頃のご利用とご指導を賜り、重ねて感謝申し上げます。

臨床検査センターを取り巻く環境は依然として厳しく、診療報酬改定に伴う検査実施料の減少や高齢化による医療機関の閉院増加、物価上昇による人件費・光熱費の高騰など、さまざまな課題があります。全国の医師会立検査センターも2000年の130施設から2023年には94施設へと減少しており、この現状を私どもも真摯に受け止めています。

こうした状況の中、当センターでは「持続可能な運営体制の構築」を最優先課題として取り組みます。検査量の確保に向け、選択と集中を進めつつ、周辺医師会との相互補完体制をさらに強化し、平常時だけでなく災害時にも対応できる BCP 体制の構築を進めてまいります。

物流・集荷体制の安定化も重要課題です。将来の人手不足を見据え、広域で安定した検体収集を実現するため、ルート最適化や連携による効率化を積極的に進めてまいります。

加えて、本年は会員の先生方のみならず、検体を取り扱う看護師の皆様にも当検査センターのラボ見学を実施し、検査前工程の自動化により品質向上と報告時間の短縮が実現された取り組みをご覧いただく機会を設けてまいります。現場の工程を直接ご覧いただくことで、日常業務や診療支援の理解をより深めていただければ幸いです。

次期基幹システムの導入に向けても、2027年5月を目標に、品質向上・業務効率化・周辺医師会との共同利用を視野に検討を進めています。これにより、より安全で効率的な検査体制を提供できるよう準備を進めます。

診療支援面では、「疾患別検査ガイド」の継続発刊に加え、昨年4月には「IgG4 関連疾患 2025」講演会を開催しました。「新・感染症を知るシリーズ」は19疾患まで発刊済みで、次号も準備中です。また、令和8年1月20日(火)には最新の感染症に関する学術講演会を開催予定です。これらが先生方の診療の一助となれば幸甚です。

検査精度の維持・向上にも全力で取り組みます。本年1月には ISO 15189 の確認審査を受審予定であり、高い品質を維持するための取り組みをさらに強化してまいります。

本年も、先生方に安心してご利用いただける検査体制の維持・強化に向け、役職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。引き続き、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。